



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／城石 俊弘 福岡県筑豊教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
三瓶 晴美 たぶせ雑学大学 代表

分科会の進め方 13:30 ~ 13:35

1 「祭り」の思想を発明する —佐賀市立勸興公民館のまちづくり実験— 13:35 ~ 14:05

秋山千潮 (佐賀市) 佐賀市立勸興公民館 館長

公民館を「祭り」の拠点としました。新しい祭りは、メディアや企業が満たしていない人々の興味と関心を掘り起こし、市民の出番を作るということを意味しています。カギは「非日常性」です。しかも、公民館を拠点とする以上、そこには生涯学習に絡んだ発想が不可欠です。「出し物」も「露天」も従来の発想を捨てなければ、新しい顧客の獲得は出来ないのです。工夫の第1は茶屋です。第2は毎月第2土曜日を「祭り」と決めました。「夜市」は住民の主催です。第4にはこれまで公民館に足の遠かった人々の招待に乗り出しました。にぎわいは恐らくこれまでの公民館では前代未聞です

2 公民館による「定住化」促進プログラムの創造と展開 14:10 ~ 14:40

渡辺 修 (島根県益田市下種町) 地区振興センター長 (種公民館長)

「限界集落」化の危機を察知して、H9年以降「定住化」を目指した公民館活動を推進。「種に定住を進める会」、「種の山菜を食べる会」、「種ふるさとまつり実行委員会」、「種の明日を夢見る会」など活動組織を次々に編成し、宅地の造成、祭りの創造、放課後児童クラブの開催、地場産品の試作など各種の活動を展開して来た。H19年、種小学校が廃校になるに及んでコミュニティ・ハウス、加工場などの活用法を検討中である。

ティータイム 14:40 ~ 15:05

3 すべての子ども達に読書のよろこびを—ユニバーサルデザインの視点をふまえた読書活動の推進— 15:05 ~ 15:35

津幡光浩 (熊本県) 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事

熊本県では、平成16年に「熊本県子どもの読書活動推進計画(肥後っ子いきいき読書プラン)」を策定し、子どもの読書活動に取り組んでいる。併せて、平成17年度からは、「障がいのある子ども達の読書活動推進支援事業」にも取り組み、すべての子ども達の読書活動を着実に推進するよう努めている。平成19年度は国の委託事業を受け「特別支援学校」「病院・施設」等で、おはなしボランティアを派遣したおはなし会を実施した。

4 総合型地域スポーツクラブによるコミュニティ活性化戦略—活動から交流へ、交流を地域づくりへ— 15:40 ~ 16:10

岩本とみ代 (大分市) 川添なのはなクラブ マネージャー

H17年からの準備を経て、心身の健康と潤いの有る生活を目標に総合型スポーツクラブを創設。スポーツ教室の実施、スポーツイベントの企画、自治公民館への出前講座、審判・指導者の育成、各種グループ・サークルへの支援など各種スポーツ・文化活動の企画と実践を通して世代間交流を促進し、地域コミュニティの活性化を目指している。